

【保土ヶ谷区】令和6年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和6年6月11日 午前9時26分 ～ 午前10時50分
場 所	保土ヶ谷区役所本館地下 地下会議室
出席者	<p>【座 長】 関 嵩史 議員</p> <p>【議 員】 森 ひろたか 議員</p> <p>齊藤 伸一 議員</p> <p>青木 亮祐 議員</p> <p>磯部 圭太 議員</p> <p>関 嵩史 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 神部 浩 区長</p> <p>山本 実 副区長</p> <p>室山 孝子 福祉保健センター長</p> <p>近 和行 福祉保健センター担当部長</p> <p>長内 紀子 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和6年度保土ヶ谷区運営方針について</p> <p>2 令和6年度保土ヶ谷区編成予算 事業概要及び執行計画について</p> <p>3 その他</p>
発 言 の 要 旨	<p>議題1 令和6年度保土ヶ谷区運営方針について</p> <p>質疑なし</p> <p>議題2 令和6年度保土ヶ谷区編成予算事業概要及び執行計画について</p> <p>(1) 区制100周年ブースター事業について</p> <p>青木議員： あと3年数か月で100周年だが、区民まつりと同じ保土ヶ谷公園を会場と考えているのか。</p> <p>神部区長： 100周年の事業に関しては、様々な事業を展開していくが、内容は今後決めていく形になる。会場は保土ヶ谷公園でやるという選択肢もあると思</p>

うが、様々な場所を使っていろいろと盛り上げていきたい。2027年の10月がちょうど100周年の区切りの日となるが、その年は年間を通じて様々な形で区民の皆さんと一緒に事業を展開していきたいと思っている。

青木議員：

一つの会場提案だが、せっかくの100周年だから区役所がある周辺、例えばへそ広場をメイン会場にして、星川のバスロータリーも使い、公会堂で何か催し物をやり、川辺町公園や区役所下も使って、全てを周遊でき、この区役所を中心に周遊できるといったような、にぎわいを生み出していくというのも面白い方法ではないか。

神部区長：

面的に1箇所だけが盛り上がるのではなくて区内の色々な場所で盛り上がるのはすごく大事だし、様々な意見をいただきながら100周年だからできる、100周年だから一緒にやってみようといった催しをやりたいと思う。また、100周年だけではなくて、その後に繋がっていくような事業を先生方のご意見もいただきながらしっかりと展開していきたいと考えている。

森議員：

100周年事業に関する今後の予算の考え方について、区長の考えを教えてください。

神部区長：

100周年を迎える区は保土ヶ谷も含め5区あり、横浜市としても区制が始まって100周年という節目の年となるため、まずはしっかりと市民局に相談していきたい。過去の80周年90周年では実行委員会で協賛活動なども行って、区内の企業団体の皆さんにご協力いただきながら事業費の確保に取り組んでいたため、今回も行政だけで頑張るのではなく、企業団体の皆さんと一緒に盛り上げていけるような予算を組んでいきたい。

森議員：

今の社会の状況とはだいぶ違うため、過去の周年事業と同じような協賛金を見込むことはなかなか難しいと思う。我々も議会の中でこの予算の確保については、対応していくが、区としてもしっかりと積み上げていた

上で情報の共有をお願いしたい。

2点目として、区内全体の盛り上がりが必要であると考えている。区内には様々な活動を行っている団体や催しがあると思うが、これからの3年間のブースター事業の中で、例えば100周年の冠をつけたり、また商店街と連携をして、お祭りなどで連携できるような素案の段階で議論をしてほしい。

青木議員：

新規事業の保土ヶ谷ダンスの作成普及で、保育園児が興味関心を持ち区内保育園への普及を図るとなっているが、幼稚園等を含めたオール保土ヶ谷、オールがやっこで推進して行ってほしい。

神部区長：

この企画は地域振興課や区政推進課だけが取り組むのではなくて、区を挙げて取り組む中で保育園の方からぜひ100周年に向けて、こども達が親しめるような、それでいて体を動かして楽しめるようなダンスを、と提案があり新しい事業とした。いただいたご意見もふまえて、しっかりと進めていきたい。

森議員：

100周年に向けて盛り上げていくために、区の歌と花憲章の活用について大切だと感じている。区役所のエレベーターで区の歌が流れなくなってしまったのを寂しがる声もいただいている。文化を大切にしていく視点も必要だが、区長の考えを教えてください。

神部区長：

区の歌をこれだけ区民の皆さんが歌い継いでいるのは非常に貴重であり、花フェスタのステージでも盛り上げていただいた。区役所のエレベーターについては改修ができ次第再開をしていくが、始業前、始業後の時間にも流している。100周年でとても良い機会でもあるため、さらに区民の皆様にも愛されるような取組を進めるなど区の歌を大事にしていきたいと考えている。

齊藤議員：

区の歌については、何年か前にはお隣のコーナンで流していただいていたことがあった。とても心地の良い歌のため、区内の商業施設などに流すような取組もしてほしい。

(2) 区民会議との住み良いまちづくり協働事業について

森議員：

区民のつどいや地域のつどいで出てきた意見を区民会議の方でまとめて、区に要望出し、回答を受けるというフローになっていて、コロナ前は回答文を地域で回覧していたが、市民局が自治会の負担軽減のため回覧を中止している。地域からどういった議論がされているかをやっぱり知りたいという声を多くもらっているが、今後そのあたりをどうするのか、伺いたい。

松藤区政推進課長：

地域のつどいは、区民会議とそれぞれの地区の連合との共催で行っているもの。地域の回覧板は確かに止まってしまっている状態だが、区民会議及び区民会議を担当している連合の会長と相談をしながら、どのように地域の皆さんに周知をしていくかを考えていく。

森議員：

地域の中での課題やまちづくりなど様々なご意見が出ているので、何とか皆さんの目に留める努力を区としてもしてほしい。自治会館で回答を置いている自治会もあるが、特に若い世代の方はなかなか自治会館に行かないため、工夫が必要だと思う。ぜひそこはお願いをしたい。

(3) 災害対策推進事業について

齊藤議員：

くらしの安全安心の確保、自助共助の意識向上で、防災ベッド、耐震シェルター、感震ブレーカーについて、7、8割の方がご存知なく、横浜市で補助制度があるということもほとんどの方が知らないという現状。局だけではなく区役所も周知をしてほしい。また、テレビプッシュの補助事業が6月1日から始まったが、このテレビプッシュは、まさにスマホを持た

ない、特にご高齢の方に向けての補助になるため、高齢・障害支援課、生活支援課など窓口で接点のある区役所でアナウンスしてほしい。

危機管理体制の強化とあるが、先日、昭和建設さんとドローンを活用した災害時の支援ということで浄水場で実証があったが、協定を結んで1年半経った。いざ発災後に、それぞれの地区担当が自治会町内会長のもとに、要援護者名簿を届けるといったことを道路インフラが壊れてもできるのか、以前からずっと疑問に思っていた。被害想定もわからない状況でどのように行くか答えが出せない中、このドローンというものは、とても有効な取り組みだと考えている。どのような課題があり、区としてすべきことは何なのか、昭和建設さんにさせていただくことは何なのかなど、横浜市内全域でいざというときや、被災した時の支援に繋げて欲しい。何か考えはあるか。

近藤総務課長：

今回、昭和建設さんのドローンだと、例えば赤外線カメラを搭載していて、光、熱源をとらえることができるため人命救助につなげることができる。4Kカメラ搭載のものだと、より詳細に拡大して例えば車のナンバーまでわかるなど、色々な場面で活用ができる。ただ一方で、発災時に操縦者を担保できるか、昭和建設さん頼みになっているといった課題もあるため、より多くのパートナーを広げていく必要がある。

課題感がある一方で、YouTubeを使ったリアルタイム配信により、情報伝達がリアルタイムで行えるということも分かった。ぜひ保土ケ谷区だけではなく市全体に広げられるよう、情報共有を進めていきたいと考えている。

(4) 花薫るきれいな街ほどがや事業について

磯部議員：

市内で唯一花憲章があり、花フェスタも開催していて、GREEN×EXPOが瀬谷区でやるということで同じ相鉄線沿いの保土ケ谷区だが、現時点で機運や認知度はどの程度なのか、分かる範囲で教えてほしい。

松藤区政推進課長：

正確なデータではないが、先日の星川まつりで、GREEN×EXPOの機運醸成ブースを区政推進課で出店をし、ボードでシールを貼ってもらうアンケート

ートを行った。ご存知の方と全く知らなかった方の割合が概ね3対1であり、楽しみにしている方が多い印象。ご高齢の方や小学生などにご存知の方も多かった一方で、働き世代・現役世代の方はまだご知らない方が多かったと感じた。

議題3 その他

(1) 峯小学校コミュニティハウスの移設について

青木議員：

峯小学校のコミハを教室に戻すというこの取り組みは、横浜市で初めてだが、いわゆる学校コミュニティハウスでどうしてもその地区がまちづくりで子育て世代が多くなったときに教室に戻さざるをえない。今後も教育委員会は、こういう事案が発生した場合は教室に戻す、といった方向性で考えていくのか。

大峽学校支援・地域連携課長：

今回峯小コミハの場合は教室に戻すという選択肢を取ったが、ケースバイケースで対応する。学区の変更、既にある教室の転用、もしくはプレハブ校舎を建てるとか、様々なパターンがあるため、それぞれの学校に沿った対応を行っていくことになると考えている。

青木議員：

プレハブで子ども達を学ばせるというような形は極力とらないでほしい。学校は子ども達の学び舎であるし、学区変更も簡単にできるものではないため、生徒が増えた場合は、教室をしっかりと確保させていくという方向で教育委員会には頑張ってもらいたい。

また、コミュニティハウスを使用している方には、そうした可能性がゼロではないとしっかりと周知し、丁寧に対応してほしい。

森議員：

私からは2点あって、今後の学校コミハのあり方を検討する時期に来ていると思う。学校コミハを設置すると、そこに地域が入り、そして関係団体が入り、また子ども達の関係性もでき、学校コミハとしてはその趣旨に沿った形になるが、こうした形で例えば教室の増があった場合には、学校

コミハを移さざるを得ないということになる。一定の理解は得られるが、利用している地域、また団体からすると、様々な思いがあると思う。条例コミハと学校コミハを一緒にするかどうかということの議論もあるが、今後の学校コミハの進め方については教育委員会の中でも、しっかりと持ち帰って議論をいただきたい。

もう一点は、今後、帷子小学校に移していくと、今峯小コミハ自体が、年間で約1万人程度の利用者があると聞いており、帷子の地域の方々が今度、そこを利用するとかなりの利用状況になると危惧している。その点は教育委員会としてどのようにとらえているのか。令和7年のタイミングでどうコンセンサスをとっていくのかという今後の対応について伺いたい。

大峯学校支援・地域連携課長：

一点目については、コミハの今後の考え方を、我々の方も引き続き研究をしていきたいと考えている。

二点目については、帷子小コミハは、駅前ということで便利になるため、かなりの利用状況になると考えられる。今後の利用の方法は、なるべく多くの方が平等に使えるように話し合いながら引き続き考えていきたい。

森議員：

今、暫定利用で宮田中、峯小、帷子小ということで学校に協力をいただいて、事務局は帷子小に置いているが、例えば鍵の問題や、管理の問題など、場所が3ヶ所になることによって、かなり大変だと思う。この点はしっかりと支援をお願いしたいし、これは区も含めてサポートいただきたい。

斉藤議員：

空白期間がないように、コミハ・教室の利用について整合をとることができなかったのか。

大峯学校支援・地域連携課長：

今回いろいろ検討した中で、地域の方、利用者の方へお伝えがかなり遅くなってしまったのは教育委員会としても、地域の方に対して、大変申し訳なかったと考えている。今後、仮にこういったケースがあったときは、今回のことを反省として生かし、混乱がないような形をとっていきたい。

齊藤議員：

先の答弁で「研究」というキーワードもあったが、どういったことが周知を遅らせてしまったのか、今回の教訓をどう今後反映していくのか。所管や担当が変わっていくと今回のことの反省が残らない。これはもう仕組み上致し方ないが、そこをどうクリアしていくのかを考えてほしい。

また、地域によって人の人口動態も変わってきているが、どんな推計をしているのか。

大峽学校支援・地域連携課長：

毎年、教育委員会の方で人口動態をとって今後の計画を立てているが、人口の動きを引き続き見守りながら、必要に応じた対応をとっていく。

磯部議員：

まず資料として、開設日も含めた保土ヶ谷区内の学校コミハと条例コミハの一覧を議員全員に1週間以内にいただきたい。

今後学校によっては、児童生徒の増減が極端になってくると思う。今回帷子小に移すが、峯小はかなり児童数が上がっている。帷子小、保土ヶ谷小、星川小も、至近にあるが、児童数が減ってきて今後どうするかという議論はいずれ避けて通れない。学校計画の予測を取って、教育委員会の学校計画課と学校支援地域連携課と区役所と三者がしっかりと今後の予測を情報共有していれば、おそらくタイムラグが起きなかったと思う。これからは同じような問題を起こさないようにやっていただきたい。

(2) 保土ヶ谷区総合庁舎の再編整備について

磯部議員：

移転して拡張したフロアを使われている職員の感想と区民の皆様から何かご意見を聞いていければ教えていただきたい。

和田生活支援課長：

この3月に4階に移転して、まず執務スペースがかなり広くなったということで、職員の心に余裕が生まれて仕事に向き合うことができるようになったと思う。また、生活支援課はかなり書類が多くあり、執務室内の移動等にも支障をきたしていたが、そういった点でも業務がスムーズに行えている。

来庁者については感想というところまでは聞いていないが、待合スペースが広がったことで、来庁者にも余裕が生まれて、穏やかな形でお客さんを迎え入れることができていると感じている。

磯部議員：

やはり職員が働きやすくすることや、しっかりと職員の方を守っていただくことが区民生活の向上に繋がると思う。今後も執務環境の向上にぜひ努めていただきたい。

森議員：

令和8年度以降の話だが、別館の空きスペースをどう活用する予定か。また、別館は補修が必要と聞いているが、例えば一部の補修であれば暫定利用をどうするかなど計画を教えてください。

近藤総務課長：

別館については本年度に全て移転が完了する予定だが、屋根や側面に雨が吹き付けてくると雨漏りが生じるため、足場を組んで補修を行いたい。

また、別館のエレベーターは耐用年数を迎えており来年度にかけて改修を行う予定である。

後利用に関しては、区役所の近くにある環境から、区に関係している施設団体等の利用が望ましいと考えており、現在関係局と調整して進めている中では、アワーズや国際交流ラウンジ等を考えている。改修の工事スケジュールにもよるが、後利用は順調にいけば早くも8年度頃から開始できると考えている。

森議員：

場所が非常に良いため、区民の方も様々なご意見があると思う。ぜひお聞きしてより良い施設にしていきたい。

もう一点は、ネット環境は整っているけど、携帯電話の電波環境が整っていないと感じる。区役所内でそういった場所があるのか調査して環境を整えてほしいと考えている。

青木議員：

消防局が隣の新本部に移転したことにより、保土ヶ谷区の庁舎の本当の

再整備がまた遠のいたと感じている。職員の環境改善は必要と一般質問でも言っているが、70年もたせるには、あと15年あり、費用をかけて整備するともう少しもたせろ、というような話になりかねない。ここの会議室は蛍光灯だし、サッシとガラスは古く断熱性能も良くない。本気で横浜市が脱酸素化やDX推進に向けてやれることがないか、当事者として考えてほしい。「こういう執務環境にした方がもっと効率がよくなる」といった区職員の意見を教えてもらいたいし、うまく我々を活用していただきたい。

神部区長：

先生方からいろいろお話いただいている通り、職員が安心して働ける、ゆとりを持って働けるのが区民の皆様のサービス向上に繋がると思っている。携帯電話の環境も含めて進めていきたいし、ぜひ実態を知っていただいて、我々としても先生方の力を借りながらしっかりと進めていきたい。また区庁舎は55年たっているため、昨年度も、市民局も含めていろいろと議論をしている。市民局と課題意識は共有しており、特に築年数が古い保土ヶ谷、神奈川、旭、このあたりは最優先事項と市民局も認識をしている。今回区役所6階まで、しっかりと使って環境整備していくのがまずは大事だと思うが、その後の新しい区庁舎をどうするのかということもしっかりと関係局も含めて議論をしていきたい。ぜひ先生方にもお力をいただきたい。

斉藤議員：

来庁者の方と生活支援課で何人かお話を伺うと、ほっとすると言っていた。個別のミーティングもできることで職員の皆さんもさることながら、来庁者の皆さんの評価もすごく高いように感じた。引っ越しも大変だったと思うが、よくなっていくことはとても大事。一方で、これで良くなって、自分たちのいる間は大丈夫だと思わずに、20年、30年後の職員の皆さん、また当然区民の皆さんのために今我々が汗を流し努力をしないとイケないと思っている。今のうちからこれで良しとしないでもらいたい。

以前のこの会議で、区庁舎については100周年を迎える時には一定程度の方向性を示せるように、と発言をさせてもらった。やはり目標を決めないと進まないことから、いつまでにどうするのかということを含め、市民局と進めていっていただきたい。

	<p>神部区長：</p> <p>大事な課題だと考えている。建替にあたっては一定程度の床面積の土地が必要であることを考えると、この場所での建て替えは現実的でないと思っている。区内のどこが適地かということについては、まちづくりと連動させながら、他に老朽化している施設もあるため、市民局・都市整備局なども含めた関係局と取組を進めていきたいと感じている。財源的な部分も含めてどのようにしていくか、先生方のお力も借りながら進めてまいりたい。</p> <p>斉藤議員：</p> <p>区民文化センターについても視野に入れながらお願いしたい。</p>
備 考	